

# 東京まゆみ会会報

第37号 (令和7年8月)



まゆみの精神

強靱であれ その木の如く  
しなやかであれ その枝の如く  
清楚であれ その花の如く  
誠実であれ その実の如く

東京まゆみ会

## 目次

あいさつ	東京まゆみ会	会長	佐藤富美夫	2
人との縁・つながりを大切に	安達高等学校同窓会	会長	五輪美智子	3
安達高校一〇二年！一一七名の青春に栄えあれ	安達高等学校	校長	洪川 卓也	4
あいさつ				
寄稿				
趣味と実益を兼ねた『家庭菜園』	会 員		大野恵美子(昭45)	5
郵政の道	会 員		渡辺 末治(昭49)	6
安達高校昭和五〇年三月卒(古希を前に)	会 員		鷹木 伸一(昭50)	8
卒業から20年	会 員		千葉 晃弘(平17)	10
プラス思考	会 員		岩本 薫(昭51)	12
合同同級会」に参加して」				
東京まゆみ会事務局より	東京まゆみ会事務局			13
東京まゆみ会のHPが充実してきました！	東京まゆみ会事務局			14
写真で見る 総会・懇親会2024				
東京まゆみ会則	東京まゆみ会事務局			16
令和6年度年会費納入者ご氏名	東京まゆみ会事務局			17
現在の役員体制	東京まゆみ会事務局			18
会からのお願い	東京まゆみ会事務局			18
編集後記	東京まゆみ会事務局			18

【表紙の写真】 2024東京まゆみ会 総会・懇親会



## 「人との縁・つながりを大切に」

## 東京まゆみ会会長



佐藤 富美夫（昭和45年卒）

令和六年三月、「東京まゆみ会」ホームページを開設し、SNSの活用を始めました。

令和七年度の活動としては、「東京まゆみ会会報37号」の作成。昨年に続き安達高等学校の協力を得て、卒業生に向け「東京まゆみ会」のお知らせを配り、首都圏へ進学・就職する卒業生、ご家族の皆様へ呼びかけを実施しました。少しずつですが活動の効果が出てきております。昨年の総会では新規会員の参加もあり、今後もこの活動を継続していきます。しかしながら、会員の高齢化により退会者の増加、卒業生の減少など、会を取り巻く環境は良くありません。皆さんに、同総会への関心をどう持つてもらうかが課題と感じております。今年は常任役員体制を増強し、知恵を出し合い「新規会員の加入促進」を進めてまいります。

今年は、大阪で2度目の「大阪・関西万博」が開催されます。日本で万博の開催は、六回目になります。第一回は、私が高校を卒業した年に開催されたEXPO1970「大阪万博」でした。アポロ宇宙船が持ち帰った「月の石」、岡本太郎作「太陽の塔」に感激しました。そして、70年代は東大紛争から

始まった学生運動が盛んな時代でもありました。

私は、大学を卒業後、外資系コンピュータ会社に就職しました。当時世界発の仮想記憶計算機能をもつ、分散処理構造を採用したコンピュータが発表され、対話型コンピュータの出現となりました。世間では、電子計算機と言われていました。入社後の研修で初めてプログラム開発を経験し、苦勞の連続でした。しかし、この経験こそがその後の人生の礎となりました。

一九八二年に、安藤先輩が勤務していた某大手自動車会社海外部門の国際データ通信システム構築に参画し、二〇〇〇年に入ってから、安齋先輩が社長をされていた某銀行の勘定システム構築に参画しました。私が先輩諸氏と出会ったのが、二〇一〇年「東京まゆみ会」に入会した時でしたので、まさしく「人との縁」でつながっていたのだと思います。

松下幸之助さんの名言集の中に、心に響く一節がありました。

## 【縁あつて】

「お互いに縁あつてこの世に生まれてきた。そして、縁あつていろいろの人とつながりを持っている。そうとすれば、お互いにこの世における人と人とのつながりを、もう少し大事にしたい。もう少しありがたく考えたい。縁のあったことを喜び、誠意と熱意をもって、お互いのつながりをさらに強めてゆきたい。」（松下幸之助著書「道をひらく」より）

同総会の「縁」も同じです。同窓生の皆さんとのつながりを大切にしませんか。会員の皆様と、同期の方々と、さらにご縁が深まりますことを念じてご挨拶いたします。

今後とも「東京まゆみ会」活動へ変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 「安達高校一〇二年！」



### 一一七名の青春に栄えあれ」

福島県立安達高等学校同窓会会長

五輪 美智子

令和七年三月一日、一年生で大文化祭、二年生で創立百周年記念式典、三年生で「安達高校 新百年へ 地域の未来に貢献します」との横断幕を掲げ、それぞれの進路に向かって果敢に挑戦し、希望を叶えた一四一名が、堂々と胸を張って卒業して行きました。

卒業生の中に、父親と同じ安達高校に学び、米作り一筋の父の後を継ぐべく、福島県農業短期大学「水田経営学科」に進学する男子生徒がいると聞いて、胸が熱くなりました。昨年夏以降の「令和の米騒動」で、店頭から消えたお米と、並んだものの通常価格の二倍近いお米の前でため息をつき続けていた私は、心から快哉を叫びました！「ああ愉快！ああ天晴れ！達高生は頼もしい！」

百年桜が春風に輝く四月八日には、一一七名の新入生が、新しい制服に身を包み、緊張した横顔も清々しく、入学式に臨みました。「一一七」という数字に驚かない同窓生は一人としていらつしやらないと思います。しかし私は「一一七」を「イイナ」と読み替え、安達高校創立第一回の入学生一〇〇名に思いを馳せました。数が少なからうが少子化だろうが、一一七名の若者は我々の母校安達を選び、挑戦し、合格を自らの力で手にした皆さんですし、我々三万一千有余の同窓生の後継者たちです。昔、華道の先生に「数少なきは心深し」と教えて頂きました。

た。「多くの花々を豪華絢爛に活けるより、数は少なくとも一花の命を生かす生け花は、慈しみの心を深くする」との意味合いで、今でも忘れることの出来ない教えです。「一一七名の青春に栄えあれ」と、心から思いました。

同窓会本部は百周年記念事業の全てを終え、5年ぶりに通常の活動に戻ることができました。記念事業の要である「メモリアル基金」も実施三年目を迎え、学校・PTA・同窓会の三者からなる「メモリアル基金運営会議」も定着して来ました。今年も、昭和六〇年のスタート以来、四〇年の歴史を誇る、まゆみ奨学金や高橋信次賞・まゆみ賞の贈呈、全国・東北大会出場部活動への激励金贈呈、会報の発刊とホームページの充実、各支部まゆみ会との連携強化などに、本部役員・事務局一同一丸となつて取り組んで参りたいと思っておりますので、東京まゆみ会の皆様の益々のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

昨年、東京まゆみ会総会の後、銀座を歩いて二本松に帰りたいと思いつき、地下鉄の駅を探して、とんでもない方向に歩き始めてしまいました。私は生来、年季の入った方向音痴のくせに、「こつちだ」と決めると自信を持って歩いてしまいます。さすがにおかしいなと思つた時に出会つた、部活帰りの女子高校生に駅を聞くと、にっこり笑つて「私も同じ駅から帰りますから、ご一緒します」との事。「東京にも達高生がいた！」と嬉しくなりました。

御蔭をもつて、銀座八丁目資生堂の美術館からスタートし、「銀ブラ」を楽しむ事ができました。八重洲口の石川県アンテナショップで「復興の思いだけでも！」と、大好きな笹寿司と地酒をお土産に、帰途に着きました。無事二本松駅に降り立つた私は、冷え込む秋風に身震いはしたものの、今日一日の東京での出会いの有り難さに心が弾みました。今年もまた東京まゆみ会の皆様にお会いできるのを楽しみにしています。



「あいさつ」

福島県立安達高等学校 校長



渋川 卓也

安達高等学校東京まゆみ会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校教育発展のためご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様、初めまして。この四月に須賀川創英館高校（令和3年須賀川高校と長沼高校が統合してできた新設校）から着任しました渋川卓也といたします。出身は郡山ではありますが、子供を育てたのはこの二本松であり、家を構えたのもここ二本松であります。どうぞよろしくお願い致します。

まずは、本県の現状について、お話しさせていただきます。少子化の歯止めがきかない現状から、県立学校において、令和元年度より「県立高等学校改革基本計画」が十年計画でスタートいたしました。募集停止や統合などにより、令和元年度百十校あった県立学校が、令和十年度末で七十校になる予定です。しかしながら、本来この計画は震災前にスタートする予定でしたが、震災で延期になり実に九年遅れで実施したこと、今年の高校一年生の入試倍率で一倍を超えたところは県内で五科しかなかったことを鑑みますと、少子化の影響はまだ大きく、中学生の奪い合いの状況が続きます。現在一学年四クラスの本校の在籍数は、三年生が一四三名、二年生が一五一名、一年生は一七名となっております。おり定員割れが続いています。

そんな状況を打破すべく、本校では地域未来を創造する人材の育成をめざし、キャリア教育推進校として生徒の力や可能性を引き出すとともに、県内の高校で唯一のユネスコスクールとして、持続可能な開発のための教育（ESD）を掲げ、特に、復興教育、国際理解教育を柱に、課題探究型学習を行い、生徒の資質能力を育成してまいります。本年度は、福島第一原子力発電所やコミュニケーション福島視察と復興の現状についての講義などの復興学習活動、ブリティッシュヒルズでの語学研修、ICCA国際理解講座や在外国人による講演などの国際理解、二年間のSDGsの授業を土台とした三年時での探究学習、ポスターセッションや公開ESD発表会や大会参加を通しての生徒の発信力の育成などを進めてまいります。

現在、本校の生徒たちは実にのびのびと、元気いっぱいに勉学に部活動に励んでおります。今年のインターハイ県大会には、陸上部、山岳部、ソフトテニス部、剣道部、卓球部、バドミントン部、カヌー部、バスケット部男女、サッカー部の九種目十団体が出場を決め、特にカヌー部においては、ポルトガルで行われた世界ジュニア選手権大会で予選九位になるほか、チェコで行われるオリンピックホープスにU17代表として出場が予定されているなど、本校より三名の選手がえらばれ、特筆する活躍を見せています。進路状況については、国公立大学七名、私立大学四十五名、短期大学十四名、看護医療十三名、専門学校等四十三名、就職十三名、公務員三名、その他三名となっております。

生徒たちは、諸先輩方が築かれた歴史と伝統、「まゆみの精神」を引き継ぎつつ、新たな百二年目の歴史を創り出そうとしております。同窓会の皆様には、変わらぬご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますが挨拶といたします。

## 趣味と実益を兼ねた『家庭菜園』

大野 恵美子（昭和45年卒）

十年前から友人の紹介で、埼玉県新座市の元農家さんの『貸し農園』の一角を借りています。練馬区から車で四〇分をかけて、野菜の収穫時期にはほぼ毎日通っています。農家育ちの私は手伝うことも無かったので、手探り状態で周りの方々からのアドバイスでなんとか作物も実ってきています。今わが家の畑にはトマト、キュウリ、茄子、ピーマン、ゴーヤ、オカワカメなどが順調に育っています。特に毎日食卓を飾るオカワカメは、別名「雲南百葉」と言われる栄養価に富んだつる性の葉っぱです。市場ではまず見かけません。さつとゆでると葉がワカメのようになり、ぬめりが出てシャキシャキした食感でごま油、ポン酢、かつお節で頂きます。わが家のゴーヤと共に夏を乗り切る大切な一品です。

今年はまだ六月なのに梅雨明けとなっていました。トマトを食い荒らすタバコ蛾の幼虫、カメムシ、ウリハムシ等の害虫にやられますが農薬は使わないので苦労します。今年も猛暑なので毎日二〇リットルのポリ缶二つを持って水やりに通います。

菜園を始めてから夏に市販の野菜類はほとんど買わなくなり、採り立て・新鮮・無農薬の野菜を食べられると思うと往復一時間余りの行程も苦にならず、毎日成長を見る、自然に触れ



る、季節の野鳥の声を聞く、吹く風などに癒されています。年齢を重ねたせいでしょうか、自然が愛おしくなりました。通い始めた頃には、わが家の周りにもたくさん農家がありました。今は一戸建ての住宅とマンションが林立しています。たくさんあった畑地、武蔵野の雑木林も少しずつ消失しており、これも地球温暖化を進めている一因かなと思います。

畑のすぐ前は有名な禅寺『平林寺』があり、野火止用水沿いの散歩道もあります。時には弁当持参でそのあたりの散策も楽しいもので、大いに心身のリフレッシュとなります。

なにはともあれ、都会に住む私には農作業に集中している時間は『趣味と実益』を兼ねたライフワークの一つとなりました。これからも体力の続く限り畑通いを続けたいと思います。

二〇二五年六月

## 「郵政の道」



渡辺 末治（昭和49年卒）

日本の郵政制度が発足したのは、明治四年（一八七一年）です。今年で創業一五四年を迎えました。造幣局が販売した「郵政制度」一五〇周年記念一万円金貨」と「同千円銀貨」のプルーフ貨幣セットを永年勤続した記念に購入しました。一昨年東京まゆみ会に初めて出席した際、五輪同総会会長へ、卒業してからずっと郵政局の仕事をしていたと申し上げたら会長から新政府を後押ししたのは鉄道と郵便でしたとありがたいお話を頂きました。「日本郵政の父」と言われている前島密（一八三五年～一九一九年）は、郵政の創始者ですが郵便為替や郵便貯金の創業のほか簡易保険を立案計画するなど現在の郵政事業の基礎を確立しました。

私は昭和四九年四月中央区築地の京橋郵便局に採用になり東京都内の十の集配普通郵便局と郵政省東京郵政局、日本郵政公社東京支社、郵政研修所に通算四七年勤務し首都東京の郵政に携わってきました。創業一五〇年の後半三分の一の期間係わってきたことを誇りに思っています。

京橋郵便局に二年間勤務し部内中等部訓練の選抜試験に合格し、仙台市の青葉城に近い緑豊かな八木山の仙台郵政研修所に

入所しました。ここで二六才未満の若い郵政職員五八名が一年間中堅職員として必要な一般的知識及び事業知識について学びました。京橋郵便局の出發に際し、五歳上の先輩から一本の竹刀を頂きました。私はこの年齢になり剣道の稽古ができていくことに感謝しております。剣道を始めるきっかけとなったのがこの一本の竹刀でした。仙台郵政研修所、その後勤務することとなる国立市にある中央郵政研修所でも剣道部に所属し稽古をしました。人生は出会いにより導かれます。「出会い」を大切にそして「初心」を忘れずこれからも剣道を続けます。仙台郵政研修所では、郡山郵政局本宮在住の三組の同級生Kさん（故人）と卒業後再会できました。郵政部内で同期生となりましたがもう会うことができなくなっていました。今年の五月東京千代田区お茶の水で「東京二〇二五・八木山杜の会（仙台中等部）」を開催し、九二歳の教官を始め二六名が出席し旧交をあたためました。五十年ぶりという人も多く年上の人が七六歳、年下の人が七十歳とお互いに年を重ねました。私は研修所では、通信事業教育振興会会長表彰、入所前は京橋郵便局長表彰、退所後は杉並南郵便局長表彰を連年受賞できたこともまた誇りに思っています。

遠距離通勤だったのは、西多摩郡瑞穂町の瑞穂郵便局でした。中野区沼袋駅から拝島駅で八高線に乗り換え箱根ヶ崎駅下車、徒歩二十分片道二時間近くかかりました。当時八高線は電化前で駅舎は木造でした。横田基地に近く、基地の中には軍人、家族が利用する郵便局が二局設置されていました。国は違っても同じポストマン同士、言葉はなかなかわからなくても心は通じ合いました。基地の中に入ることなどできるものではありません



せんでしたが、このときは基地のハウス前の広場で軽スポーツを楽しむジュースとケーキで懇親を図り、英語で書かれた記念品まで用意していただいたのは良い思い出です。太平洋を挟んで遠くに離れた両国、簡易な通信手段で心をつなぐのはやはり郵便です。記録性があり何度でも読み返すことができます。国立の郵政研修所の二階から四階の休憩室の壁には「郵政の使命」と題した英文と和訳がポスターサイズで掲示してありました。これはワシントン中央郵便局前に石に刻まれた「ワシントンポスト碑」といわれるもので郵便の神髄を表す至言です。和訳には「思いやりと愛の使者」「家族のきずなに安らぎを」「報道と英知を伝え」、「相互の理解を促進」という言葉で郵便の原点、郵便のこころをしみじみ感じさせてくれる内容です。

大島、三宅島、利島郵便局、小笠原郵便局に会計監査の仕事で行きました。利島では、しけで船が桟橋に着けず三日ほど足留めされ天候の回復を待ち新島に渡り調布まで飛行機で帰ってきた経験もあります。二十五年前三宅島が噴火し全島避難の時、私は東京郵政局にいましたが三宅島の郵便局職員と一時期一緒に仕事をしました。「西暦二〇〇〇年問題」の時でした。

目黒郵便局で集配営業部長をしていたときある部長から「渡辺部長は安達高校なんですね。私の妻が卒業生名簿を見ていて名前がありました。」と言われました。西東京市のマンション管理員のしていたとき近くのマンションで協力会社社員として働いていた方は安達高校の同級生、根崎町のAさんということがわかりました。

文教地区の国立市、国分寺と立川の間のなので一文字ずつ取り「国立」としたようです。赤い三角屋根の国立駅南口から富

士山の見える方向に二十分ほど歩くと中央郵政研修所（現在は研修センター）があります。私はここで通算七年間勤務しました思い出多い職場です。武道場もあり二十九歳の時剣道三段をいただきました。教士七段の教官、部長が三名おられました。国鉄学園（国分寺）電通学園（調布市）郵政大学校、中央郵政研修所三者でのスポーツ大会、「三者交歓」も盛んに行われていました。敷地内には、全国で二両しかない鉄道郵便車が展示されています。手紙や葉書、郵便小包を積み込み東京（隅田川駅）を出発し、東北本線、青函航路、函館本線を経由して根室まで往復していました。その後東北本線奥羽本線を経由し、秋田まで往復していました。もう一両は、石川県七尾市のと鉄道の中島駅に展示されています。鉄道郵便輸送は、昭和六十年三月全面的に廃止されました。

駅伝競技と郵便、タスキで思いをつなぐ、心をつなぐという点で類似性があります。私は大手町の郵政局勤務が長くよく皇居を走りました。郵政マラソン大会の事務局もしていました。東京二〇二〇オリンピック聖火リレーランナーにも応募しました。各種大会の完走証大事に残してあります。

郵政マラソン大会一〇km三九分五八秒

東京シティマラソンハーフ一時間三九分三一秒

三浦国際市民マラソンハーフ一時間五六分四五秒

青梅報知マラソン三〇km二時間五六分一三秒

など、高校の時もみんなで走った記憶があります。これからも無理しないで健康マラソン走ります。日本郵政グループ陸上部の応援も皆様どうぞよろしくお願いします。

## 「安達高校昭和五〇年三月卒（古希を前に）」

## 合同同級会」に参加して」



鷹木 伸一（昭和50年卒）

令和七年六月一八日（水）一五時、二本松御苑にて「安達高校昭和五〇年三月卒（古希を前に）合同同級会」（以下、「合同同級会」という）が開催され、参加しました。卒業後、実に五十年振りの同級生との再会でした。

「合同同級会」を実現してくれた実行委員一九名に感謝の気持ちを含めて、内容を紹介したいと思います。実行委員の皆さま、ありがとうございます。

## 「感想」

○楽しかったー！ ぜひ、また参加したい！

○六時間（一〜二次会）、呑みっぱなし喋りっぱなしで喉が痛くなっただ！

○「言うは易く行うは難し」、実行委員は凄かった！

## 「概要」

昭和五〇年三月卒業生三四九名のうち八四名（男性四八女性三六）が参加しました。遠くは福岡から、関東からも一〇名弱の参加で

す。

五〇年振りの再会は、会場のクラス別テーブルに向かう途中、「すれ違う人と互いに顔を凝視し、名札をチラ見して記憶を辿る」という静かな始まりとなりました。

集合写真撮影の後、開会挨拶は実行委員代表元野球部松本君、進行は元サッカー部松坂君、乾杯発声は元野球部百川君がそれぞれ簡潔に務め、開宴となりました。程なく、クラス別に登壇しての各人一言挨拶が始まりましたが、準備された催しはこれだけです。以降は、呑んで喋って大騒ぎの一択でした。宴は同級生フアーストに貫かれ、「来賓・恩師（高齢）無し、時間潰しの出し物やビンゴゲームなど一切無し」の潔さです。聞いたところによりますと、「むずがしごと言わねで、会って呑まねがい？」が基調だったらしいです（笑）。

皆さんお元気な上に、耳が遠くなつたせいか声がデカく、懐かしさによる気持ちの昂りも相まって、会場は大変な盛り上がりとなりました。釣られた私も、喉が痛くなりました。

締めは、校歌と凱歌の斉唱です。全員が一つの輪になって、元応援団員三名が演壇で指揮を執ってくれました。校歌と凱歌に浸っていると、恐ろしかった応援団練習が思い出されました。久しぶりにもかかわらず自然に歌い始めることができるのも、あの練習の賜物なのでしょう。

閉会挨拶は、「言い出しっぺ」の元柔道部大坪君が簡潔に締めてくれました。

## 「実行委員に感謝」

全国に散った対象者三四六名の「合同同級会」を開催するには、

二年程前から準備してきたのだろうと考えておりました。ところが、「大坪君が、『今度、合同同級会やつちない。』と呟いてから八ヶ月後に案内状（内容確定）を送し、その三ヶ月後が本日の開催です。」というではありませんか。私は、1年未満で成し遂げた実行力に大変驚きました。

そもそも、内容を参考にしなくても「合同同級会」学年単位のクラス会」の事例は少ないようです。聞いたところでは、達高でも知ってる範囲で1、2例あるとのことでした。他校（郡山の男子高と女子高）も、「卒業年度にもよるが0～1回開催程度」と似たような状況でした（サンプルは3名）。事例が少ないということは、開催の難易度が高いことの表れだと思います。

冒頭に、「言うは易く行ふは難し」、実行委員は凄かった！と感想を述べました。理由は、参考事例が少なく開催難易度が高い「合同同級会」を短期間でまとめ上げ、開催を実現したということです。この実行委員の実行力がなければ、いまだに「あーでもない、こーでもない」と言うだけの検討会が続いていたかもしれず、実現には至らなかったかもしれません。実行委員に感謝です。

### 「終わりに」

実行委員19名は、ほとんどが地元二本松近辺にいらつしやる方が担われたそうです。その多くは、時々に応じて達高同窓会本部の役員、事務局、常任幹事等として同窓会活動に携われた経験をお持ちで、日頃から連携して卒業生の関係性維持に尽力されてきた方たちだということでした。日頃の活動や連携で培われた実行力が、「合同同級会」開催という目標に向かって発揮されたことなのだと思います。

東京まゆみ会は、故郷を離れた達高の大先輩たちが、故郷を思い誇りを持って発足させた会です。東京まゆみ会が同窓を楽しむ場として今後も継続されますよう、実行委員の実行力を見做って、卒業生の関係性維持に努めていきたいと思っています。



## 卒業から20年

## 千葉 晃弘（平成17年卒）



この度縁あって、東京まゆみ会へ参加させて頂き、諸先輩方からのお声がけもあり寄稿文を書かせて頂くこととなりました。私は現在、一企業に勤めるサラリーマンではありますが、高校卒業から20年が経過し、その間学生時代を含め色々と印象に残る経験をさせて頂いております。高校時代の話から現在に至るまで、簡単な自己紹介のような内容ではございますが、これまでのことを書かせて頂ければと思います。

安達高校との縁は、私は姉二人との三兄弟ですが、姉二人とも安達高校の卒業生ということもあり、進学を考えたとき、安達高校にも姉の用事で行ったこともあり、何となく安達高校に通うイメージもあったため、そのまま進学となりました。

高校時代は野球一家で育ったこともあり、そのまま軽い気持ちで硬式野球部へ入部。県立高校の野球部のため、いわゆる野球強豪校のような野球漬けの毎日ではなく、学校生活と両立し

た生活が送れるものだと思っておりました。然しながら、私が入学する2年前に熱血監督が就任し、部の雰囲気は一変。入部後は約2年半に渡り、昼夜問わず休日祝日問わず長時間にわたる猛練習に励む日々の連続でした。非常に辛い思いもした野球部時代でしたが、2年生の時には、学校創立80年という節目の年に、創部以来初の夏の選手権大会福島予選でベスト4に進む等非常に貴重な経験もさせて頂きました。

高校卒業後は東洋大学へ進学。この選択にも紆余曲折があり、私は高校時代理系コースに所属しており、工学部系の大学への進学を当初は目標としておりました。ところが、どうにもこうにも数学の苦手意識が取れず、またそれ以外にも、せっかく高校時代つらい練習を乗り切り野球をやり切ったのだから、大学でも続けたいという意識も芽生え、理系ではなく文系の学部へ進もうと決心し、3年生の11月から受験勉強を文系の科目に絞り、受験に挑むことになりました。受験中は、先生方の多大なる協力を得て、時には個別での講義も実施して頂き、更には部活で培った根性と粘り強さを武器に、何とか受験競争を突破。晴れて自分が望む大学への進学を叶えました。

大学入学後は、東京の都心のキャンパスへ通っていたこともあり、大学生活も謳歌し、野球についても、東洋大学の硬式野球部はプロ野球選手も幾人も輩出した名門強豪校ということもあり入部は叶いませんでした。が、準硬式野球部というこちらもそれなりに強豪で知られている部へ入部することができ、当初の目標であった大学でも野球を継続するといった目標も叶えることが出来ました。体育会系の部活であったため、高校時代とはまた違う大人の上下関係を学ぶことが出来、この点は後のサ



ラリーマン人生に強く役立っております。唯一自分の考えが浅かったと思ったのが、さんざん数学が苦手であることを知っていたながら、進んだ学部は経済学部であり、経済数学・統計学・ミクロ経済・マクロ経済等数学を駆使しなければならぬ講義が多数ある点をあまり念頭に置いていなかった点です。これについては周りの友人に助けられながら何とか四苦八苦しながら単位取得となりました。また、教員免許を取得したこともあり、教育実習では安達高校で約1か月間お世話になりました。結果、教員の道を選ぶことはありませんでしたが、この時も貴重な経験をする事が出来ました。

大学卒業後は、ゼミの影響や、周りの影響もあり東京で働くことを決断。新卒で入社した会社は東京に本社を置く財閥系の専門商社で、そこでは主に産業工作機械の営業を担当。その会社には10年在籍しておりましたが、その間約6年間は中国上海へ駐在し、現地法人の運営にも携わる貴重な経験をさせて頂きました。中国という国は非常に大きな国で、人口も多く、毎日がトラブルの連続で非常に大変な6年間ではありましたが、日系企業の中国進出に合わせた進出のお手伝いを担う等スケールの大きな仕事の経験もでき、大変ながらも非常に充実した駐在員生活を過ごすことが出来ました。また、この時の印象深い出来事としては、尖閣諸島の領土問題に端を発した中国と日本の政治問題に絡む反日運動に遭遇したことです。この時は自分が日本人であることを後悔するほど現地での反日感情は酷いものがあり、この出来事が改めて自分は日本人であることを自覚させ、更には自分も他国に行けば外国人なのだと改めて意識することとなりました。

上海駐在後はまた東京に戻り、元の会社で営業担当に戻ることにしますが、帰国して2年後、全く異業種の金融会社から、私の経験を活かせる業務の拡大化を目指しており、当社へ入社頂き力を貸して頂けないかとお誘いを受け転職。現在は三井住友ファイナンス&リース株式会社にて、地球環境部門という部門に所属し、リース物件等含めた中古設備のリユース事業や、物件の将来価値判断、リース返還物件の最有効化等の業務を担当し、微力ながら地球環境の改善に役立てないか奮闘している最中でございます。

ここまでが自己紹介を含んだ私の経歴の紹介となります。最後となりますが、私は今年39歳と社会人としてはまだまだこれからという年齢です。これからも色々と困難にぶつかる事はあると思いますが、安達高校の卒業生として、少しでも母校に立派な報告ができるよう、謙虚さを忘れず、コツコツと努力をしながら、日々を過ごして行きたいと思っております。

また非常にささやかな目標ではありますが、いつの日か人事異動の際に、自分の名前が日経新聞に掲載される日を目指にこれからも一生懸命働いて行きたいと思っております。最後となりますが、この度はこのような貴重な機会を頂きありがとうございました。

## 「プラス思考」



岩本 薫（昭和51年卒）

中学三年の夏休みから同級生と二人でゴルフのキャディーアルバイトをし、友に安達高校に進学し高校二年の夏休み前までお金を貯め念願の北海道旅行に行きました。

期間は二週間、テントとハンゴウ、寝袋とギターを持ち、当時の国鉄周遊券を使い電車とバスでテレビなしラジオのみの旅をしました。時刻の決めもなし、地理的な大きな目的だけで、できるだけ希望地を回るという旅でした。たどり着いた名所観光地でテントを張る場所を見つけ、ハンゴウで飯を炊き、主におかずはボンカレー、長い夜はいろんな話をしました。そうした中でよく話したのが、運命説か開拓説かでした。意見は分かれ、私は開拓説でした。互いに少ない経験談を持ち出し旅行中ずっと話をしました。互いの言い分を理解しつつ未熟なりに生き方なり考え方を理解し合いました。それが今ある自分の基になっている事は間違いがないように思います。

大学という学校に行かせてもらい、運動と遊びをさせてもらいました。その間も自分の「プラス思考」の考え方は変わらず、

就職し三度転職し、卒業する六十五歳まで変わることはありませんでしたしおそらくこれからもそうだと思います。関わって来てくれた人達すべてに感謝しています。この五一年度卒業、そして参加できていない友人の様々な思い出が私の全てだと思っています。前々回、ジャンケンで勝ち自己紹介をさせてもらった時にお話しさせてもらったように、私の父も姉も安達高校で、父は安達高校の教師でもありました。

同じ高校に毎朝向かい同じ家に帰ってきてはいましたが私は一人庭に小屋を建ててもらいほとんどそこで生活をしていました。父からは自分のしたいことは自分で決めろ、自分のやりたいことは自分で考えて行動しろと言われ、私はほぼその意見に賛成でした。ということは自分のやる事には結果には責任を持つと言うことだったのだと思います。

仕事を卒業し、今はゴルフとドローン飛ばしをし過ごしています。まだまだやりたい事もありますが、私もおじいちゃんと呼ばれる今になり前向きな生き方だけを貫ければと思っています。自分がなりたい人間になるためには、自分が切り開き、考え信じ工夫して行動する。満足という言葉はないかもしれませんがそれでよいと思っています。これからも友は本当に大切に、歴史を紡いでくれた先輩方に感謝をしたいと思っています。

東京まゆみ会の HP が充実してきました

<https://tokyomayumikai.com/>

“東京まゆみ会”で検索できます！



## 最近のトピックス

- 片平 元体育教諭マイストーリー1～15
- 栃木県日光の紅葉（10月27日・28日）

## 行事報告

- 2024年度東京まゆみ会総会＆懇親会 報告

## コンテンツ

- 東京まゆみ会について
- 会長挨拶
- 行事報告

掲載記事を募集しています。投稿大歓迎です！

“東京まゆみ会” [tokyomayumi23@gmail.com](mailto:tokyomayumi23@gmail.com)



## 写真で見る 総会・懇親会2024

2024. 10. 12 スクワール麹町



乾杯の音頭 安斎隆氏



伊藤 安達高校長



同総会五輪会長



佐藤会長



東京二本松会丹羽会長  
(二本松藩主18代目)



初参加のお二人





今年も二人の名司会者



好評だったものまねショー



高橋智章新顧問



五輪会長の名指揮

懐かしい校歌を歌って終了

## 東京まゆみ会会則

第1条 本会は、「東京まゆみ会」と称し、事務所を首都圏に置く。

第2条 本会の会員は東京を中心に広く在住する福島県立安達中学(旧制)、同安達高校(併設中学、本校および旭・針道・小浜・岩代・渋川・石井・大平の各分校定時課程、夜間過程を含む)ならびに二本松実科高女、福島県立二本松高女、同安達女子高校の卒業者、同関係者で組織する。

第3条 本会は会員相互の親睦と共栄を図り、併せて母校の隆盛発展に寄与することを目的とし、そのために必要な諸般の事業を行う。

第4条 本会は次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。

第5条 会長1名、副会長若干名、事務局長1名、会計1名、常任幹事10名以内、会計監査1名、幹事20名以内。会長は本会を代表し、会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。事務局長は会の運営を円滑にするため、事務上における全般を遂行する。会計は本会の金銭出納、会計管理をする。常任幹事は会務を分掌、幹事とともに会の運営に当たる。会計監査は会計を監査する。

第6条 会長、副会長、事務局長、会計、会計監査、常任幹事(以上を常任役員と称する)は、総会において選任し、幹事は、常任役員会で選考のうえ会長が委嘱する。

なお、補欠として選任された役員は、前任者の残任期間とする。

第7条 幹事会が必要と認めた場合、諮問機関として顧問を置くことができる。

第8条 総会は年1回、臨時総会は必要に応じ会長が招集する。総会では常任役員(※幹事以外)の選任、会則の変更、会計の承認、会計監査の報告、その他重要事項を決議する。

第9条 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決するところとする。

第10条 幹事会および常任役員会は、必要に応じて会長が招集し、総会に次ぐ重要事項や緊急事項を協議する。

第11条 本会の経費は、会費、寄付金などをもって充てる。会費は年額2000円とする。

第12条 本会の会計年度は8月1日に始まり、翌年の7月31日に終わる。

第13条 本会の事務執行に関する細則は、幹事会で決定することができる。

(付則)この会則は、昭和48年4月1日より施行する。

(一部改正)

平成8年9月15日
平成13年9月9日
平成16年8月3日
平成22年8月29日
平成27年8月30日
平成30年10月13日

## 令和六年度年会費納入者ご氏名

令和7年7月20日現在

(卒年)(敬称略)

昭 40	昭 39	昭 38	昭 37 36 35			昭 34 33					昭 32 30 29			昭 28	昭 27	昭 26	昭 25	昭 23					
渡 辺	安 藤	中 根	遠 藤	渡 辺	佐 久 間	坂 本	渡 辺	風 間	水 野	丹 野	移 川	安 斎	岡	横 島	鈴 木	大 島	菅 野	撞 井 ヨ ウ 子	安 齋	安 齋	遠 藤	高 橋	巻 山
健 司	公 夫	珪 子	禎 一	峻 志	哲	盈 子	紀 雄	章	イク	朝 二	栄 二	隆	安 男	享 子	俊 郎	庸 世	博	ウ 子	善 雄	正 敏	修	功	寛
	桜 井	山 口	山 口		早 川			神 野	山 本	藤 田	氏 家	安 斎	渡 辺		西 山	小 林	菅 野	諸 根	石 井	栗 原	菅 野	湊	
	園 子	寛	弘 二		ミ ツ			宗 介	紀 夫	孝 男	盛 通	宏	昭 雄		洋 子	哲 子	寛 雄	靖 忠	壽 子	絹 子	明	幸 三	
	鈴 木	山 崎	奥 野		遊 佐			高 済	渡 辺	三 浦	熊 田	安 藤			前 田	佐 藤	斎 藤				鈴 木		
	幸 雄	民 子	伸 也		莞 次			博 彦	浩 司	利 榮	聰 男	勇 夫			長	邦 英	俊 行				衛		
	本 間				渡 辺			最 上		三 浦	澤 井	伊 藤			武 藤	諏 訪	蓮 見				星		
	幸 次				栄 喜			茂		英 夫	信 明	定 男			國 造	親 太 郎	隆				秀 男		

(卒年)(敬称略)

昭41	昭42	昭43	昭44	昭45		昭47	昭48	昭49	昭50	昭51	昭53	昭54	昭60	平17	特別							
内山ミエ	高橋智章	鈴木陽子	景山博安	國分正敏	阿部伊勢吉	小牧林	塚原保子	渡辺弘次	荒井守仁	大内正造	鈴木タミ子	渡辺末治	阿部孝志	百川教彦	朝比奈恵子	本田昭則	森英昭	田村昭彦	喜古康博	森淳子	武田晃司	渡辺達夫
齋藤和夫	築山くに子	常住美智子		本田清五郎	飯田博幸	佐藤富美夫	福島精子	佐久間秀幸	橋本哲雄		野地章		菅野孝三	佐々木いせ子	岩本薫	山崎力			齋藤公子		千葉晃弘	
太刀野静子	渡辺二郎				大野恵美子	菅原広司	山岸富子		菅野俊		平子杉代		神田久幸		菅野育夫	山田由美子			穴戸岩			
高橋悦子	渡辺博彦				加藤正博	長南邦年	吉川裕子				松川艶子		鷹木伸一		佐藤愛子	福井トシ子			中廣美和			

(以上125名)

総会・懇親会初参加者

平3 高根孝子

平17 千葉晃弘



## 現在の役員体制

令和7年7月20日現在(卒年順)

【顧問】	安斎 隆(昭34)	安藤 勇夫(昭34)
【会長】	高橋 智章(昭41)	
【副会長】	佐藤富美夫(昭45)	平子 杉代(昭49)
	阿部伊勢吉(昭45)	
	山田由美子(昭51)	
【事務局長】	菅野 育夫(昭51)	
【会計】	大内 正造(昭48)	
【会計監査】	渡辺 弘次(昭45)	
【常任幹事】	百川 教彦(昭50)	菅野 孝三(昭50)
【幹事】	常住美智子(昭42)	喜古 康博(昭60)
	山崎 力(昭51)	
	森 淳子(昭60)	以上

## 会からのお願い

☆新会員ご紹介のお願い

本会は、入会の申し込みを常時受け付けております。

同期・先輩・後輩の方に入会を希望される方がいらつしやいましたら、本会事務所宛て、もしくは、当会役員に、氏名、卒年、住所、電話番号をお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

なお、新会員の方は、入会年度の年会費は免除と致します。

## 編集後記

今年も猛暑。春先から全国版の天気予報で「福島」の地名を頻繁に耳にしました。過去にあまり記憶にありません。なんと今年の七月には福島市で39.2℃、梁川で39.9℃の記録的な高温が観測されたとのこと。甲子園の高校野球も二部制が取り入れられるなど、この先どうなってしまうのでしょうか。

安達高校の今年の入学生が一七名、三、四十年前の三分の一です。中学校三年生の卒業生数の推移をみるとこの二〇年で半減しているようですから仕方ないことかもしれませんが。少数精鋭頑張ってほしいものです。

東京まゆみ会も今年喜寿を迎えます。三年後には八十周年です。首都圏に出てくる卒業生はごく僅かのようにですが頑張って会員を増やしていきましょう。

最後に、第37号の編集も無事終わりました。皆さんのご協力に感謝いたします。

《会報編集》 東京まゆみ会事務局 菅野育夫

## 東京まゆみ会 会報 第37号

発行人 東京まゆみ会 会長 佐藤 富美夫

〒332-0016

埼玉県川口市幸町1-2-30-602

電話・FAX 048・256・1616





21世紀をひらく  
業務品質日本一の信頼と英知のプロ集団

(株)JPA総合研究所

(株)JPA国際コンサルタンツ

(株)パートナーバンク21

(株)JPA財産クリニック

(株)日本パートナー 税理士法人 社労士法人 経営参与事務所  
行政書士法人

代表 税理士 神 野 宗 介 TKC真正A級会員  
経営士 (昭和35年卒)

東京本社: 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台4丁目3番地 新お茶の水ビルディング17階  
TEL (03) 3295-8477・FAX (03) 3293-7944

多摩本部: 〒190-0012

東京都立川市曙町2-22-20 立川センタービル10階  
TEL (042) 525-6808・FAX (042) 525-2459

東北本部: 〒964-0891

福島県二本松市大壇148番地 神野ビル  
TEL (0243) 22-2514・FAX (0243) 22-3115











一つ一つ手作りで  
丹精込めてお作りしています

**喜月堂本店**

〒231-0843 神奈川県横浜市中区本郷町1-23
電話番号: 045-622-0221

